

第6次高浜市総合計画推進会議（第7回） 会議録

日 時	平成28年3月11日（金）午後7時～8時		
場 所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	6名
出席者	委 員	中川幾郎、酒井康満、岩月義成、高桑雄司、竹内一仁、田代峯子、 内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏 (10名出席)	
	行 政	高浜市長 吉岡初浩 (※途中参加) 教育長 岸上善徳 総務部長 新美龍二 市民総合窓口センター長 大岡英城 福祉部長 神谷美百合 こども未来部長 中村孝徳 都市政策部長 深谷直弘 財務グループ リーダー 内田徹 文化スポーツグループ リーダー 岡島正明 教育センターグループ リーダー 内藤克己 教育センターグループ 主幹 岡本竜生 こども育成グループ リーダー 都築真哉 地域産業グループ リーダー 板倉宏幸 市民生活グループ リーダー 山下浩二 都市整備グループ リーダー 田中秀彦 都市防災グループ リーダー 芝田啓二 地域福祉グループ リーダー 杉浦崇臣 保健福祉グループ リーダー 加藤一志 人事グループ リーダー 野口恒夫 行政グループ リーダー 山本時雄 企業支援グループ リーダー 平山昌秋 上下水道グループ 副主幹 杉浦睦彦 生涯現役まちづくりグループ リーダー 磯村和志 (23名出席)	
	事務局	企画部長 加藤元久 総合政策グループ リーダー 木村忠好 同 主 幹 鈴木明美 同 副主幹 榊原雅彦 同 主 査 山本久美 同 主 事 稲垣翔太 同 主 事 岡田真吾 同 主 事 加古博紀 (8名出席)	

<p style="text-align: center;">次 第</p>	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>1) 平成27年度推進会議を振り返って</p> <p>2) 平成28年度推進会議スケジュール(案)について</p> <p>3) 高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略について</p> <p>3 その他</p>
<p style="text-align: center;">資 料</p>	<p>資料1：第6次高浜市総合計画推進会議(第6回) 会議録</p> <p>資料2：平成27年度推進会議及び点検・確認作業から見えてきた課題に対する行政の考え方と対応</p> <p>資料3：施策評価シート 変更フォーマット(案)</p> <p>資料4：平成28年度 第6次高浜市総合計画推進会議 スケジュール(イメージ)</p> <p>資料5：平成28年度「市民意識調査」「小・中学生アンケート」の実施について(案)</p> <p>資料6：高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略 - Next たかはま -</p>

1. あいさつ

- 会 長： ・本日は、平成27年度推進会議締めくくりの回ということで、今年度の推進会議を振り返り、平成26年度施策評価における点検・確認作業において見えてきた成果・課題等を洗い出し、次年度の推進会議をより円滑に進めていきたい。

2. 議題

1) 平成27年度推進会議を振り返って

- 会 長： ・平成27年度推進会議から見えてきた成果・課題や、点検・確認作業における委員の皆さまからのコメントに対する行政の考え方等を事務局から説明していただく。
- ・併せて、事務局で作成した施策評価シートのフォーマット修正案についても説明していただく。
- 行 政： ・資料2及び資料3を基に説明する。
- ・委員の皆さまからの施策評価シートの内容に対するコメントや、会議中での発言の中から、課題・今後の改善（案）を資料2にまとめている。
- ・課題1として、課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善（案）の手段・方法が明確でないものが多いとのご意見をいただいた。委員の皆さまに点検・確認作業を行っていただく際、ここがカギになってくると思われる。
- ・次年度以降は、課題解決に向け、具体的にどういった手段で、また、どのような方法を用いて取り組んでいくのかを具体的にお示ししていく。
- ・「課題2：市民にとってわかりやすい資料・説明」として、多くのご意見をいただいた。
- ・「取組みの優先度を明確化する」及び「アクションに対する期限を設定する」に対しては、資料3のとおりフォーマットを変更することで対応させていただきたい。
- ・「要点をまとめた分析」及び「消極的な表現」については、ご意見のとおり今後改善していく。
- ・5点目は、行政からの発表の際、限られた時間をいかに有効に・有意義に使うかということを念頭に置き、委員にとって分かりやすい発表を心掛ける。
- ・「課題3：市民・地域との関わり」ということで、主体の明確化をはじめ3点のコメントをいただいた。
- ・まち協・町内会など、具体的に地域のどの主体をパートナーとして連携・協力していくのかを明確にするとともに、地元企業へは、行政の施策のあらゆる側面からアプローチを行っていく。
- ・「自助」「公助」「共助」の観点については、資料3のⅡ【DO】の欄及び裏面のⅣ【ACTION】欄に、まちづくりの基本原則である「参画・協働・情報共有の工夫」の欄を設け、各種取組みの実施にあたり、3原則の観点から工夫・

配慮する点について明記することで、市民・地域とともに課題解決に向けどう取り組んでいくかをお示ししていく。

- ・3点目のご意見についても「参画・協働・情報共有」の原則を徹底し、あらゆる場面で市民との対話・キャッチボールを密に行っていく。また、市内で行われているまちづくり活動の内容や成果、実際に活動に参加している人の声などを、様々な媒体を使って広く周知し、まちづくり活動の大切さを伝え、地域へ飛び出す一歩の後押し、そしてまちづくりの後継者・担い手育成に向けて取り組んでいく。
- ・「課題4：市民意識調査」に関して2点コメントをいただいた。
- ・回収率向上に向けた取組みとして、現在、広報に調査協力依頼を掲載しているが、その他、地域の会合の場において直接協力をお願いするとともに、どうしたら回収率が向上できるかについての調査・研究を行っていく。
- ・「男女年代別の割合の見える化」については、母数が少なく誤差も大きくなることが予測されるため、施策評価シート等には掲載せず、内部資料（参考数値）として算出していきたい。
- ・次年度以降も施策評価にあたり、課題等の分析や、課題解決に向けた取組みについて、市民の皆さんの声に耳を傾け、グループ内や各部署と連携・共有しながら検討し、そして、総合計画の目標達成に向け、全庁を挙げて取り組んでいく。

会 長： ・資料2について、委員の皆さまからご意見・ご質問等あればお願いしたい。
(意見・質問等なし)

会 長： ・資料3についてご意見・ご質問等あればお願いしたい。

委 員： ・Ⅱ【DO】の欄において、手段・方法を明確にするため、「何を・どのように・どうした」と変更してはどうか。

行 政： ・ご意見のとおり修正させていただく。

委 員： ・資料2の「まちづくりへの関心を高めるアクション」の前段部分に対する対応策をもう少し具体的に示していただきたい。

・まちづくりの担い手の問題は、ただ待っているだけでは解決されないため、行政から積極的にアクションを起こしてほしい。

会 長： ・どの自治体においても、自然に後継者が出てくるということは期待できない。目の据え方を変えないといけないという主旨であったように思う。

・続いて、前回第6回推進会議において、各グループリーダーより「推進会議からのコメントに対する行政の考え方・対応（案）」について発表していただいた。ここからは、その後の進捗状況などについて、施策評価のとりまとめグループリーダーから述べていただく。

行 政： ・企業の地域活動・地域貢献のPRでは、広報たかほま3月1日号の特集記事において、市内企業の地域貢献の活動について掲載した。平成28年度も引き続き紹介していく。

- ・まちづくり実践の精神は、防災訓練への参加などからも引き継がれていると認識している。引き続きこうした事業への参加をお願いしていく。
- 行政：
- ・財政情報の提供として、今年度は当初予算の概要及び決算の概要をリニューアルし、コラム欄を設けたり、基金残高・市債残高の推移、主要新規事業の概要など内容を厚くした。
 - ・公共施設のあり方計画を進めていく上で、新たな試みとしてその財源的な裏付けとなる、平成63年度までの長期財政計画を策定した。この中には事業費の見直しに関することも含まれているが、2月に議会にお示しするとともに、3月末に公表を予定している。
 - ・5小学校区で市民説明会を開催し、593名の方にご参加いただいた。町内会ごとに伺い、情報提供に努めていく。
 - ・当初予算への反映についてであるが、公共施設あり方計画を推進していくため、具体化に踏み出すための予算編成としている。
- 行政：
- ・平成28年度は「タカハマ！まるごと宝箱」事業において、市民と行政で構成する実行委員会を立ち上げ、取組みの輪を広げるとともに、子どもがまちの魅力を動画で発信する、あるいは、子どもと一緒にまちの魅力を掘り起こす取組みを進めていく。
 - ・市民映画「タカハマ物語2」が完成したので、その次につながる取組みとして、新たにショートムービーを制作するなど、これまで映画制作を基盤に培ってきたネットワークを基盤に、子どもの成長を支援する取組みを引き続き進めていく。
- 行政：
- ・異校種参観は、中期の間に教職員の参加に集中的に取り組んできたが、参観のペースを調整しながら細く長く続けられるように実施していく。
 - ・高浜カリキュラムは28年度に全てのモデルプランが出揃うため、29年度から完全実施をしていく。
 - ・小学6年で行っている防災の学習については、小1～小5でも何らかのことが学べるよう、カリキュラムの調整を進めていく。
 - ・目指す子ども像掲載のカレンダーについては、写真とコメントを刷新し、4月に発行する。PTA総会で保護者に向けて説明し、啓発を図る。
 - ・地域との連携については、地域関係者・団体とのつながりを損なうことなく、活動・連携の見直しを図りながらさらにつながりを深めていく。
- 行政：
- ・3月に各種会議を開催し、市民委員の意見をお聞きした。ポータルサイトのあり方については、違う切り口でとのご意見をいただいているため、次年度以降に活かしていく。
 - ・6月19日に当市の食育10周年を記念する「高浜食育フェスタ」を実施するにあたり、実行委員会を立ち上げ、企業の方の参画をいただく。
- 行政：
- ・老朽化が著しい高浜港駅新駅舎に瓦を用い、3月25日に完成予定となっている。今後多くの方に親しんでいただきたい。

- ・駅の新たな可能性の発掘として、28年度より三州瓦屋根工事奨励補助金の補助メニューを拡充した。28年度以降も地場産業の振興につながる取組みを進めていく。
- 行政： ・環境美化推進員に、新たに小・中学校各1校が登録予定である。
- 行政： ・市民サービスの低下につながらないように、計画に沿って公共事業を進めていく。
- 行政： ・防災用無線機の修繕については、28年度当初予算で要求しており、4月早々に対応する。
- 行政： ・3月6日に常総市に関わりのある講師を招き、市民防災講演会を開催した。
- 行政： ・生活困窮世帯への就労支援として、3つの福祉施設及び1つの企業と協力関係を築くことができた。今後も協力企業等の開拓に努めていく。また、就労先を斡旋できるようにするため、28年度に無料職業紹介・職業相談の導入について検討を行い、29年度中の導入を目指していく。
- 行政： ・相談に来られない人への支援体制として、電子メールによる相談ができるようにした。28年度にパンフレットを作成し、関係機関への設置と情報提供の協力要請を行う。
- 行政： ・市内で現在82ヶ所の健康自生地ができ、当面の目標の88ヶ所が目前である。ご提案のとおり小学校区を意識した健康自生地マップを作成したい。
- 行政： ・いきいき号のコース検討について、職員がいきいき号に乗ってシミュレーションを行っている。健康自生地巡りのモデルコースを複数、市民の皆さんにお示ししていきたい。
- 行政： ・脳とからだの健康チェックについては、現在未受診者の再勧奨を行っている。
- 会長： ・委員の皆さまから一言ずつ、今年度の推進会議を振り返っての感想や、ただいまの行政の皆さんからの発表を受けての、行政への提案・エールなどをいただきたい。
- 委員： ・公共施設の地区説明会に参加して感じたこととして、市民にはなかなか複合化という考え方が理解できないと思う。理解していただくためには、市民に財政的な考え方を変化させるための根拠が必要になってくると思われるが、そこが不足していたように思う。
- 委員： ・委員からの意見に早急に対応していただいている。
- 委員： ・次年度からは手段・方法の具体化や期限の設定などより厳しくなると思うが、目標達成に向けてより進んでいくと思われる。
- 委員： ・子育て関係の話し合いの中で、時代の流れを感じた。計画を立てた始めた頃からは少なからずズレが生じているが、何が今必要とされているかなど、常に見直しを行いながら対応していく必要性を感じた。
- 委員： ・1つ1つの「地域」という言葉が指す対象について今後も注視していきたい。
- 委員： ・自分の学区の健康自生地だけでなく、全ての自生地を回りたいと思う。
- 委員： ・【DO】の「どのように」の部分に重点を置いて取組みを実践していただきたい

い。

- 委員：・委員からの意見で、良いものはすぐ取り入れ、報告もしていただいた。とてもやりがいのある1年であった。
- 委員：・高浜市で作られた瓦が、全国各地で使われていることが案外知られていない。産業の活性化として、小学生に鬼瓦の制作風景を見せ、その後に修学旅行に連れていくと、興味が湧くのではないかと感じた。
- 委員：・会議録・資料は簡潔にまとめてほしい。施策評価シートもPDCAに固執しすぎしており、A3片面で簡潔にまとめられないかと思う。
- 委員：・事業の進捗管理を自分からもしていきたい。
- ・先ほどの公共施設に関するご意見について、長期財政計画が策定されたため、今後はもっと精緻な話ができると思う。
- 会長：・総合計画の位置付けが、この四半世紀で大きく変化してきた。昭和40年代の計画は「啓発的・開発的計画」であった。現在は、持続可能な自治体を作っていくために、乏しい資源をいかにうまく組み立てていくかという「拘束的・公約的計画」に変わった。このシステム変更は大きな改革であった。
- ・この計画書は行政内部における教材であるとも言える。慣れてれば資料も簡潔になると思われる。今は過渡期中盤に入った頃と認識いただきたい。

2) 平成28年度推進会議スケジュール(案)について

- 会長：・事務局より説明をお願いしたい。
- 行政：・資料4を基に説明する。
- ・推進会議の開催回数であるが、28年度は6回を予定しており、会議の開催時期・内容については、27年度とほぼ同様の進め方で考えている。
- ・現在は、平成27年度施策評価の準備段階ということで、行政内部で平成27年度にどんな取り組みをしてきたか、どんな成果・課題があったかを整理しているところである。
- ・平成28年度に入り、4月から5月にかけて「市民意識調査」を実施する。期間・対象等は資料5のとおりで、18歳以上を対象とした「市民意識調査」は2,500人を対象に、また、「小・中学生アンケート」は小学3年生～中学3年生の約3,500人を対象に行う。
- ・5月下旬に予定している第1回推進会議では、平成27年度の行政の取り組みに対する点検・確認作業をしていただく前段階として、「平成28年度市民意識調査」の速報値の発表、及び現在の高浜市を取り巻く状況について説明をさせていただくとともに、委員の皆さんの疑問点をなくしていく回としたい。
- ・その後、行政内部では6月から、市民意識調査の結果を踏まえた上で、再度平成27年度施策評価シートの作成を行う。
- ・7月下旬・8月上旬に予定している第2回・第3回推進会議で、行政内部で

とりまとめた施策評価の内容について発表を行う。

- ・8月下旬の第4回推進会議は、第2回・第3回推進会議で委員の皆さまからいただいた意見を「点検・確認結果」として取りまとめ、その点検・確認結果（案）について協議したのち、市長へ提出をする回となる。
- ・行政では、10月から平成29年度事業計画や予算案の作成作業に入っていく。11月中旬に予定している第5回推進会議では、皆さまに行っていただいた点検・確認結果を、実際に平成29年度予算案やアクションにどのように反映させようと考えているかについて、各担当グループリーダーから発表を行う。
- ・その後、平成28年度の締めくくりとして、平成29年3月下旬の第6回推進会議において、28年度の推進会議の振り返りを行い、29年度へとつなげていきたいと考えている。

会 長： ・資料4についてご意見・ご質問等があればお願いしたい。
（意見・質問等なし）

会 長： ・資料5についてご意見・ご質問等があればお願いしたい。
（意見・質問等なし）

会 長： ・平成28年度第1回～第4回推進会議までの日程を確定させたい。事務局に一度お返しする。

行 政： ・お示ししたいいずれかの日程で、第1回は午後6時から、第2回～第4回は午後7時から開催したいと考えている。

【日程調整の結果】

第1回：再調整

第2回：7月22日（金）

第3回：8月 5日（金）

第4回：8月23日（火）で決定

3) 高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

会 長： ・事務局より説明をお願いしたい。

行 政： ・資料6を基に説明する。

- ・総合戦略及び総合戦略を策定するための基礎になっている人口ビジョンは、「まち・ひと・しごと創生法」という法律に基づき、すべての自治体が策定をすることとなっている。
- ・今回は、高浜版総合戦略の完成形として冊子にとりまとめ配布をさせていただいている。内容としては、前回説明した概要に細かい説明を付記したものとなっている。
- ・1月15日から29日の2週間でパブリックコメントを行い、2名の方から8件のご意見をいただいたが、特段の修正はしていない。
- ・高浜版総合戦略は総合計画をベースに作成をしており、前回、会長からもお

言葉をいただいたが、高浜市にはすでにしっかりとした総合計画があるため、総合計画と整合性のある総合戦略としてとりまとめている。

- ・総合戦略は総合計画同様、毎年度の検証・見直しを必要としているが、総合計画をベースとした総合戦略であるため、推進会議で総合計画の進行管理がされていくことが、自然と総合戦略の進行管理にもなっているという仕組みとしている。つまり、アクションプランが見直しされれば、総合戦略もそれに合わせて変えていくということになる。
- ・総合戦略については、本日の推進会議を経て、3月議会において報告し完成・公表となる。

会 長： ・ただいまの内容について、ご質問などがあればお願いしたい。

委 員： ・「カワラでつながるミライ」という言葉が出てくるが、瓦は保護する産業であり、戦略ではない。瓦に代わるものを考えていかないといけない。いつまでも瓦に固執していいものかと思う。

行 政： ・瓦を取り上げたのには1つの想いがある。
・昔から高浜では瓦が「仕事・働く」の象徴であった。この総合戦略は、雇用の確保や新しい流入人口を増やすなどの視点で中身が作られているため、瓦産業をどうこうということではなく、「働く」の象徴として使っていることをご理解いただきたい。

委 員： ・日本の文化を守るためにも、瓦産業を続けていきたいといった思いも込められている。

委 員： ・瓦の次に何かあるのかを今から考えておくべきである。

委 員： ・◇は、総合戦略におけるアクションプランということか。

行 政： ・その通り。

委 員： ・先ほどの委員のご意見と同様、私も瓦に代わる新しいキーワードが必要であると感ずる。

4. その他

会 長： ・以上で、全ての議事は終了したので、その他に入る。

・最後に市長から一言お言葉をいただきたい。

市 長： ・途中からの参加となり申し訳ありません。

・総合計画を踏襲して総合戦略を作っている。瓦と生活することはこの地区では切り離せない。「働く」ということの象徴的な言葉として「瓦」を使っている。

・高浜の1つのアイデンティティーであり、これを軸にミライ（ヒト・モノ）へつなげていけたらと思う。いただいたご意見を参考に、中期基本計画を進めていく。

会 長： ・これもちまして、第7回総合計画推進会議を終了する。